

# いの流水俳壇

間 浩太選

## 平成二十四年の回顧

平成二十四年一月から十二月までを振り返って、いの俳句会の推移、消長、会員の変動、俳句会以外の会の行事などについて広報を基準にし回顧してみました。いの俳句会の実施は、毎月第二土曜日の午後実施しました。吟行と句会、新年会と句会、忘年会と句会、椋本神社への献句俳句会などは、実施日を変更しましたが、土曜日の俳句会は、実施しました。当の俳句会の会員は、高齢者が多く、八十歳以上の人を数えますと十名以上で、過半数を占めています。特に清水にお住まいの弘瀬うき子さんは百二歳で、百歳を超えられた俳人は非常に少ないと察せられます。

うき子さんは、古くから俳句を研鑽、昔は県外の俳句誌に投句、掲載されてきました。現在もすてきな句を、私のところへ送付してきます。字も正確で私などより上手な字で投句してきます。

これからも、体調に気を付けられ、ますますお元気で句を作ってください。片岡包女さんも小川から俳句を投句、俳句会場へ自分で車を運転、句会に参加されます。

また高知新聞の俳壇・歌壇に投稿、たびたび俳句・短歌が掲載されます。毎週の日曜日には、高知新聞に包女さんと伊藤萩甫さんの俳句・短歌・川柳が掲載されています。見ると、見るのを楽しみにしています。伊藤萩甫さんは、京都市から投句されていましたが、高知市へ転居され、六月から投句されています。俳句だけでなく短歌・川柳も勉強され、高知新聞には、

俳句・短歌・川柳が掲載されています。向学心には敬服します。投句だけでなく、まだ句会に参加されていないので、皆に顔を見せてとお願ひするのですが、「体調が十分でないので、皆さんにお会いしたいが、まだ句会には出席できない」とのことでした。

### 一人抱き二人歩かせ天高し

岡本とも子 この句は、二十四年度高知県俳句連盟主催の、高知県俳句大会で多くの選者から選ばれ高知県知事賞を受賞された句です。

いつも、いの俳句会に素晴らしい句を寄せられて、会員が感心していたとも子さんですが、長年のためまな研鑽・努力の結果で多くの人が敬服しています。この句は、昨年一月号で選者の私が第一位の句として掲載したもので、選んだ私も嬉しいことでした。

いの俳句会の特徴は、前述したように高齢者の多いことと、男性の俳人が多いことです。

会員が女性より男性が多いのは、他の俳句グループ、短歌グループでは珍しいことです。ほとんど女性が多いです。

また、他のグループでも高齢者が多く退会者が多くなり、運営にも困るし、中には自然消滅するのではと、心配しています。いの俳句会も、病氣・その他で退会・休会する方もあります。幸いに新人が入会するので、会員の減少は目立っていませんが、若い人に入会してもらおう努力が必要です。

今年度の県俳句連盟の会長・植田紀子さんは昨年七月まで、当会の句会、行事などに、参加して下さり長期間にわたり指導して下さりました。感謝しています。連盟の会長に就任されましたので、多忙となり当会への出席は難しくなりましたが、いづれまた、当会へ出席し

てくださるようになると思います。本当にありがとうございます。ご家族やご本人の体調不良や多忙のため、投句を休まれている方々もいらつしやいますが、一日も早く全快され投句を再開されますようにと、お祈りしています。

九月に椋本神社（いの大国さま）の大祭に献句の俳句大会を実施しました。県連の役員は、会長ほか多数参加してくださいました。

いの町全戸に配布する大國新聞に全員の名前と句が印刷されて配布されました。椋本神社の皆さんには、会場の設営、昼食の段取りその他のご援助を賜り、遅くなりましたが、厚くお礼申し上げます。

### 私の好きな句

秋風も捲きて綿菓子売られおり  
大根煮てアルファベットも忘れけり  
高々とあかきオリオン海の駅  
愛情の深さへ雪の溶けてゆく  
買はれたる風鈴に風ついてゆく

句の上手下手に関係なく、私が好きだと思った十三句のうち五句を記しました。句の作者は記入していません。皆さんがお暇なときに、広報を見ながら作者を調べてください。他の人の多くの句を見るのも、俳句上達の一つともいわれます。

次 題 「当季雑詠」五句  
締め切り 毎月五日

投句先  
社会教育課

いの町3597  
893-2012

## 今月のごども川柳

きれいだな 山を見上げて 一人言ひとりごと  
長沢小6年 曾我部 真雪

(評) 何も言わなくても聞かなくても、風景情景が浮かんでくるね。秋の山々を見上げたときの真雪さんの一人言に、小学6年生の心の豊かさや伝わり嬉しそうですね。

すず虫の 音色で心 いやされる  
川内小6年 大久保朋美  
(評) 美しい虫の音色も、聞く人の心の持ちようでいろいろに伝わって来るね。素直な心で素直に受け止めれば、心もいやされやさい気持ちになれる。純粋な今の気持ちを大事にしたいものです。

としよは みんなにこに ほんをよむ  
伊野小2年 かの末すみれ  
(評) 子どもたちになくてはならない、としよつみんなの笑顔があらふれ出る。成長の原点をおしえられる。ごめんねの そのひととで なかなおり  
伊野小3年 井上千づる

帰り道 さんまのおい 腹がなる  
川内小6年 山本 樹輝  
おつきさま かたがちががう なんだかな  
伊野小2年 川上ありさ  
ひびかそう 心一つに 音楽会  
川内小6年 筒井 美空

日がしずみ 赤く染まった 鱈雲  
伊野小6年 片岡 凌河  
たまねぎは ひとをなせる やさいだね  
伊野小2年 中じまさよ

思いでを 北風ともに 消えていく  
川内小6年 濱田 海秀

※「ごども川柳」は町内全小学校の児童の皆さんを対象に募集しています。次回提出締め切りは1月18日(金)です。たくさんの方の皆さんの応募をお待ちしています。(応募は各小学校を通じてお願いします。)

※選評は、川柳連会の皆さんにお願ひしています。